

諫早干拓早期開門の実現 院内集会開催



有明海の荒廃は周辺地域全体の崩壊をもたらし、国レベルで政治的に調整しなければ解決できない。

6月28日、衆議院第1議員会館において諫早干拓早期開門に向けた院内集会が開催された。参加者は60名。うち国会議員17名が参加して、昨日の長崎地裁の判決のブリーフィングと相互の意見交換が行われた。参加した国会議員の所属政党は与野民主党、社民党で、野党からは自民党、共産党、無所属議員らが参加した。冒頭、馬奈木弁護団長から判決の解説が行われた後、小長井町の漁業者松永が以下の通り意見を述べた。

「昨日の判決はガツクリした。長崎県民として司法も腐りきっていると感じた。有明海の没落の原因が諫早湾の干拓事業であることは漁師ならみんなわかりきったこと。現在もまだまだ被害は継続している。貧酸素水塊が悪化の原因であることは明らかだ。」

続いて元法務大臣の鳩山邦夫議員が、

「今の解説を聞いてこの判決がいかにおかしなものかがよくわかった。諫早湾内には被害がないということだが、たぶん裁判官は生態系や自然環境のことを理解できない人なんだろうと思う。国というか農水省が不誠実なことが問題。自分が法務大臣のときに、高裁係属中であつたが、「アクセスに何年かかります」とか悠長なことばかり言っていた。菅首相の上告断念は唯一評価できることなので、最後までしっかりやってももらいたい。」

佐賀県太良町の漁業者平方は「昨年は12年ぶりにタイラギ漁ができると一旦沸いていたが、すでに稚貝が死にはじめていて、漁期の終了を待たずに終了しなければならぬ状態になった。みんな水門が開いて、有明海が再生する日を楽しみに歯を食いしばって頑張ってきた。今港に船をつないだままになっているのは玉ねぎ収穫のアルバイトに行っているからだ。目の前に海があるのにどうすることもできない日々が続いている。政治がもっとしっかりしてほしい。民主党に政権交代したらずぐにでも開きますと言われたのに、もう随分時間が経っている。」と憤りを露わにした。

よみがえれ！
有明訴訟弁護団
(後藤富和)発行
092-512-1636
090-9602-0700



雲仙市の漁業者室田は、

「うちの漁場の稚魚はたいへん密度が濃かったが、今は見る影もない。タイラギが少ない年でも自分たちでいろいろ自主規制などして頑張ってきたが、まったく獲れなくなるとは思わなかった。今は組合長の下、一致団結して開門決議を挙げて頑張っている。」と述べた。

中島隆利議員は、

「説明を聞いて、判決のひどさがよくわかった。ギロチンの様子をテレビのニュースで見ながら、今までにどれだけ被害が拡大しているかがよくわかった。心を痛めているのは開門派、反対派で長崎が二分させられていること。これは政治がつくりだしているものなので、政治の力で一刻も早く解消しなければならぬ」と述べた。

平山誠議員は、

「上関原発の反対運動でも漁師が頑張っている。補償金をくれるといわれたり、逆にいじめのようなことをされたりしても耐えて反対を貫いている。こういう運動が大切。これからも日本の海や川などの自然を守るために頑張りましょう」と述べた。

赤嶺政賢議員は、

「タイラギがどんなにすばらしい食材かはよく知っている。そのタイラギの不漁やアサリの大量斃死を見て、必ずいい判決がでると確信していたので、びっくりした。被害がないわけがない。(馬奈木団長から)爆音訴訟が例に出たが、沖縄でも「お金ではなく、静かな夜を！」が住民の本当の気持ち。有明海が宝の海に戻るまで頑張りましょう」と述べた。

紙智子議員は、

「本当に不当な判決で怒っている。福岡高裁判決の内容を出来るだけ速やかに実現することが重要。長崎の農民の不安はきちんと説明して安心してもらうしかない。この判決でいささかも後退したわけではないので、引き続き院内での運動を頑張っていく」と述べた。

野田国義議員は、

「予想だにしない判決で驚いている。もう一度みんなで心を一つにして頑張ろう」と述べた。